校長研修だより１９３

生徒指導は，「いのちを守る」「いのちを輝かせる」

2025・4・9　重枝 一郎

下の表は，私が約２０年前に当時の学校で作成したものである。生徒指導と教科指導と学級づくりの大枠を見える化したものである。

学級づくり	ルール・マナー ・SST	リレーション ・SGE ・GWT （同時に育てる）
生徒指導	**いのちを守る** ・安全確保のための管理 ・ルール違反した生徒への毅然とした対応（ゼロトレランス） ※管理であり，脅しではない	**いのちを輝かせる** ・個性，よさ，持ち味の開発援助 ・発達課題への支援 ・SOS を発している生徒への心のサポート ※受容であり，迎合・甘やかしではない
教科指導	**授業規律の維持** ・個人のスタディスキル（＊）をチェック ・個別の改善目標を設定 ・自己評価と応援メッセージ	**自己指導力の育成** ・自己存在感を与える （目を合わせる，声掛け） ・共感的人間関係を築く （一緒に考える） ・自己決定の場を与える （どの問題を取り組んでみたい？）

（＊）上表の教科指導にある「スタディスキル」とは，「時間管理（チャイム席），学習環境（忘れ物，机上準備，片付け），あいさつ，ノート，話の聴き方（ハーリス・ボディリス），集中力（ゾーン），グループでの協力」のことである。これを一覧表にし，各自契約，再契約を行っていた。教科指導は生徒指導の弱点であり，最大のチャンスにもなる。教科指導から始まる学級の荒れ，逆に，教科指導を通して学級づくりが大きく前進もする。先生方もやっていると思うが，スタディスキルチェックや生徒の目標管理を丁寧にやることは「自律的学習者の育成」につながる。

裏面に上表の解説

学級づくり，集団づくり，人間関係づくりの取り組みは，日常化につながらないと意味がない。例えば，人間関係づくりのためのエクササイズをして，その時はよい雰囲気になったけれど，日常生活では変化が見られないのでは，本当の意味で，ねらいを達成できたとはいえない。学級づくりをするうえで，クラスに「ルールとマナー」を定着させることが大事だが，「ルールとマナー」の定着だけでは不十分である。同時に「リレーション」を育てるという視点を教師がもつ必要がある。これは，「しつけ」と「感情の交流」を同時に行うということであり，それを授業化したものが GWT である。教師が意識しておかなければならない視点は２つある。それは，授業の「イントロ」と「シェアリング」である。イントロで，この授業のねらいは何なのかを，しっかり生徒に浸透させていないと，「おもしろかった」で終わってしまい，日常化にはつながらない。また，今後の学級生活で，安心感が生まれるようなシェアリングを行うことも大切になる。そのことは，よい感情を教室に，学年に，学校に伝染していく。

生徒指導の視点での「ルール」といえば，「いのちを守る」である。これは，生徒の安全確保のためのスタンスであるが，これだけでは不十分である。「いのちを守る」という視点にプラスして「いのちを輝かせる」ことも大切である。これは，「受容」することなのだが，教師の表情や，言葉かけひとつで伝わり方が変わる。例えば，朝の登校指導で，服装や頭髪などの指導や，遅刻しないように「遅いぞ，走れ」などと指導をするのと同時に，生徒の表情や様子を見ることが大事である。今日は元気がないな，今日はいつもの友達と一緒に来てないな，などに気付くことである。その両方の視点が，「ルール」と「リレーション」の両方を育てることにつながる。

また，学校での大半の時間を占めるのは，「授業」である。教科指導の中でこそ，全職員が，共通理解・共通実践を行うことができるチャンスである。もちろん教科の内容的なことではなく，基礎的条件のことである。全職員が授業の中で，「ルール」と「リレーション」を同時に育てていこうというビジョンを共有して実践することが，学校風土を創り出すことになる。教師が授業の中で，意識的に生徒と目を合わせたり，声をかけたり，生徒の意見をつないだり，一緒に考える場面を意図的につくったりすることで，生徒の自己指導力を育てることができる。生徒が「やらされ感」をもって受ける授業ではなく，生徒の中からスモールティーチャーが生まれてくるような授業をつくりたい。そういう雰囲気づくりを教師が仕組むことで，本当はできるけれど引っ込んでいた生徒が，前にでるきっかけとなっていく。生徒に自己存在感や自己決定の場を与えながら，共感的な人間関係を築けるような授業を，意識的につくっていきたい。

それと同時に，授業規律をしっかり守らせたい。そのためには，まず，生徒と「契約」を結んでおくことである。そして，荒れる前に，「スタディスキルチェック」を定期的に行い，評価する活動を入れる。特に必要だと思う項目を教師がつくって，「チェック表」にする（学年会で作成するのもよい）。そうすると授業規律が大きく崩れることはない。崩れ始めたら，「再契約」を結ぶ。そのタイミングを教師は見逃してはならない。

また，ありきたりだと「刺激」として入らないので，「ランキング」を入れるのも効果的である。例えば，「スタディスキルチェック」を行い，自分ができていないものの中で，「一番目に改善したいことは何ですか？」と問うてみる。それが，「数学の授業時のあいさつをきちんとする。」だったとしたら，それを意識化して日常化させるために，友達からの応援メッセージを書いてもらって，提出させておく。「自分のランキング＋応援メッセージ」があれば，教師も注意しやすくなる。それは，教師の一方的な注意にはならず，本人の自己指導力を育てていることになる。そこが「やらされている」ではなく「自分でやる」に変わる仕掛けになっている。教師は意図的に，授業規律の確立と，自己指導力の育成を同時にしていく。